

尿路結石

尿路結石とは、尿の通り道に様々な成分の結石ができてしまう状態を言います。結石のできた場所による分類（上部尿路結石、下部尿路結石）や結石の成分による分類などがあります。

尿路結石は一種類ではなく、その原因により結石の成分が変わってきます。小児ではカルシウムによる結石や尿路感染に関連して出来てしまう結石が多いとされています。

症状としては、肉眼的血尿やお腹の痛みが特徴的ですが、小さいお子さんでは腹痛を訴えることができないため、不機嫌、哺乳量低下、嘔吐など他の病気でも認める症状しか示さない場合もあり、注意が必要です。

成人に比べて小児で尿路結石ができる頻度は低く、腎尿路異常などの結石を作りやすい基礎疾患が隠れている場合があるため、注意が必要です。検査では、結石のできている場所、尿の流れを妨げていないか、そして結石が出来た原因を調べるために、画像検査（超音波検査やCTなど）、血液検査、尿検査などが行われます。

治療としては、痛みに対して痛み止めを使用することと同時に、結石を小さくして排出するための薬物療法や食事療法が行われます。大きな結石の場合には、体の外から結石を小さく砕く治療や手術など、外科的な治療を必要とする場合があります。結石の場所、大きさなどによって治療が変わってきますので、主治医の先生とよく相談しましょう。

石ができやすい体質の場合には、一回の治療だけで終了する場合は少なく、その後も、結石ができないように、お薬や生活管理（食事や飲水など）など継続して経過を見る必要があります。